

地域で子どもを育てる取組みが各地で展開されている。意図的に子どもたちとその地域の大人との交流の場を作り、子どもたちが主体的に活動しながら地域への愛着を深めたり地域の大人たちの見守りの姿勢を感じ取ったりすることで、子どもたちの健全育成を図っている。その形は、本巢市内でも地域によって様々であるが、多くに見られるのが、夏祭りでの中学生の活躍の場を用意するもので、夜店の1つを担当したりビンゴゲームの世話をしたりしている。糸貫地区では、12月初めの日曜日に、「地域づくり事業」として小学校区別に中学生が企画・運営する三世代交流を行っている。事前に数回の自治会長と社会教育推進員と中学生(主に二年生)とがその年の活動内容を検討して、当日は中学生が中心となって運営している。三世代でゲームを楽しむ校区や三世代で校区のオリエンテーリングに出かけた後炊き出した豚汁を食べる校区がある。(三年前のことであるが、実行委員になった中学生が、「小学生のときに、中学生の子に楽しませてもらった思い出があり、今度は、自分が小学生を楽しませてあげたいと思って実行委員になった。」と言っていた。『地域で子どもを育てる。』取組みが地域の子どもを育てている成果であると感じられたことばであった。)

また、三世代による夏休みラジオ体操の取組みが、本巢地域と真正地域で取り組まれている。(残念ながら糸貫地域は、5日間だけ中学生が小学生かやっているところへ参加するだけである。)その様子を、八ツ又自治会の様子で紹介する。夏休みが始まって間もない22日から8月22日まで行われる。昨年までは、中学生の代表の数名も一番前に出て体操をしていたが、今年は、小学生の代表数名だけが前に出てやっている。小学生83名を囲むように、中学生20名余りと子ども会の役員や保育園児の親、自治会と公民館の役員、老人会の50名くらいが体操をしている。

公園の入り口で、中学生が当番になってラジオ体操カードに参加印を押してくれる。「おねがいます。」と言うと、「おはようございます。」言ってくれる中学生もいれば黙って押してくれる中学生もいる。園児から老人までいろいろな人と短時間ではあるが関わるようになっていく。参加した小・中学生、園児、大人には、毎年、参加賞が公民館会計から出る。小中生には500円程度の図書券、園児には花火、大人には洗濯洗剤が出される。地域住民の関係が希薄になりつつある世間の中で、この参加賞を目当てに参加する人も多いただろうが、世代を超えて同じ目的で大勢が集う姿が昔から変わらないのは、この地域の子どもの大人との関係や地域で子どもを育てる姿勢がかわっていないことを表しているといえる。

